

CBCラジオ『土曜ワイド 広瀬隆のラジオでいこう！』 スマイルレポート インタビュー内容

平成27年12月19日（土）

Q1：名古屋市における高齢化社会の現状を教えてください。

名古屋市医師会では、将来的な高齢化社会の対応として、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることが出来るよう、昨年度より在宅医療・介護連携の推進に本格的に取り組んでいます。

今年10月には、名古屋市内8区に在宅医療介護連携支援センターを設置し、看護師やケアマネージャー、医療ソーシャルワーカーなどの専門的知識を有した職員を配置しました。

医療関係者や介護関係者をはじめとする、多職種の方々・一般市民の皆様からの相談に、平日の午前9時から午後5時まで対応しております。

平成28年4月には市内16区全てに在宅医療介護連携支援センターを設置する予定です。

Q2：在宅医療・介護連携支援センターの具体的な取り組みについて教えてください。

新規在宅医の参入促進や、在宅医療介護に携わる多職種の方々の負担軽減、在宅医療介護の安心安全均てん化を目指して、独自に『在宅医療介護支援システム』を構築いたしました。

具体的には、先ず、在宅療養者を中心とした、かかりつけ医（開業医）・歯科医・薬剤師・看護師・ケアマネ・ヘルパー・医療ソーシャルワーカー等との多職種間の連携サポート、次に、ICTツールを活用し、在宅療養者の情報共有、また、通院治療や入院治療から在宅療養へ移行するサポート、最後に、在宅医療・介護連携支援センター閉館時の夜間休日相談窓口によるサポート、以上の4つの柱を軸として進めております。

Q3：今後、地域医療の持つ課題は何ですか。

国が行った意識調査によると、約6割の方が病院ではなく自宅で最期を迎えたいという結果が出ています。名古屋市内なら、どの区にお住まいでも、同じような在宅医療や介護サービスが受けられることと合わせ、在宅医療の果たす役割や、必要性を含め、どのような医療行為が可能なのか、またどのような介護サービスが受けられるのか、そういったことを市民の皆様へ啓発して行く事が求められています。

在宅療養は地域全体で支える仕組みですので、かかりつけ医、総合病院の連携はもちろん、多職種の方々とも連携は不可欠です。顔の見える顔の分かる関係作りを構築していきたいと思っています。医療と介護の垣根を取り外し、それぞれの立場から在宅療養者を支えるべきと考えています。

Q4：スマイルメッセージをお願いします。

名古屋市では2025年には総人口を占める65歳以上の割合が、26.3%と推測されています。4人に1人が高齢者となります。医療と介護を繋ぐ架け橋として、現在8ヶ所の在宅療養介護連携支援センターを設置しておりますので、お気軽にご相談下さい。

『安心してください！名古屋市医師会では取り組み始めていますよ。』

電話番号も各センターとも末尾0874（オハナシ）で統一しております。

回答者：在宅医療・介護連携室長 谷口 幸繁